

## 学校図書館の科学教育支援 ―スーパーサイエンスハイスクールを事例に―

吉岡 優美

科学技術が日常にも大きな影響力を持つようになった現代では、技術の益々の発展に寄与できる人材や、科学技術に親しみ、理解できるような能力の育成が必要となる。その一事業として2002年から開始されたのが「スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 支援事業」であり、2018年も継続されている。SSHに指定された学校では先進的な理数教育や高大接続の在り方が研究されている。しかし理数教科での学校図書館の活用は少数である。そこで本研究の目的はSSH指定校を事例に、学校図書館が科学教育支援において果たす役割について考察することである。研究方法は文献調査と聞き取り調査である。文献調査では雑誌「学校図書館」の分析を行い、学校図書館による科学教育支援の全体像を明らかにする。聞き取り調査ではSSH事業の指定を受けている4校の図書館担当者4名とSSH担当教員8名を取材し、科学教育支援を行うにあたっての課題を明らかにした。

文献調査の結果、学校図書館による科学教育支援は、授業計画の中で果たす役割に応じて(1)事前・事後指導における支援、(2)調べ学習・探究学習における支援、(3)収集資料と資料のレイアウト、紹介による支援、(4)インターネット、電子メディアを利用した授業支援、(5)教科横断学習のとりまとめによる支援、の5パターンに分けられ、理数分野においても学校図書館と連携した有効な授業展開は多く存在することが明らかになった。

聞き取り調査では、最も根本的な問題として司書教諭と学校司書の連携不足や学校司書が事務職であることにより学校図書館運営の実質を担う学校司書が学校の教育課程に関与する事が出来なくなり、学校の教育課程から切り離されてしまうという事例がみられた。さらに科学教育においては、国語科や社会科に比べ図書館を活用した授業の検討・実践が多いとは言えない。そのために学校司書からの授業支援がしにくい事や、学校司書が学校図書館を訪れた教員に活用を促す方針を取っている場合は、多くの場合学校図書館と関わりの少ない理数教科の教員はより学校図書館を活用する機会が少なくなっている。

これらの事から、学校図書館による科学教育支援の課題は(1)学校司書の教育課程からの乖離(2)事例不足による授業提案のしにくさ(3)理数教科教員の学校図書館とのかかわりの薄さであると考察する。これらの点については、学校図書館の科学教育支援の現状はSSH校においても順調であるとはいえ、これらの課題の解決には学校司書が学校の教育課程に関わる体制を整えるか、司書教諭が図書館員として教育と図書館を繋ぐ活動できるように業務を積極的に調整することが必要である。また、学校図書館に教員が図書館を活用した授業の実践事例を保存していく事が重要である。

(指導教員 平久江祐司)